

県政情報

日本共産党茨城県議会議員

鈴木さとし

樋口973-5 ☎24-0278 (fax 兼)



筑西・桜川両市長は合意書を順守し一刻も早く 新中核病院「建設推進会議」の発足を

両市議会の賛意の下、昨年12月13日、新中核病院建設の基本的事項(「県政情報 NO34号掲載」)に両市長は合意して調印式を行い、その後県知事と県保健福祉部長に報告し、期限延長申請を行った知事に感謝を述べました。そして12月26日、厚労省から正式に期限延長が認められました。困難があってもこの経過に基づき早急に「建設推進会議」を発足させるべきです。建設実現には冷静な対応が必要です。桜川の不安の背景に病院・診療所の少なさなど筑西との違いもあり、そもそも地域医療再生計画を作るのは県の責任だからです。

〔鈴木さとしの提案〕

両市は合意書に基づき建設にむけた包括的話し合いを県は桜川市民の不安にこたえる責任を果たすことが必要

①県西総合病院の関係者から今後の医師確保が不安視されている状況もあり、両市長は早急に合意書通り「建設推進会議」を発足させる ②県を窓口とした医師確保ができないか(両市の対応だけでは困難)

③老朽化した病院の建て替えに県の支援はできないか。

両市は無条件に合意書通りテーブルに着き、これらの点を含めて「建設推進会議」で十分話し合い、県西総合病院存続が可能なのかも究めるべき。



↑ 県と懇談しています

知事に、同友クラブ・下館青年会議所・下館商工会議所 青年部が早期実現の署名簿を提出

2月10日、3団体主催の知事を囲んでの新年懇談会が催されました。その中で3団体は「市民の命と健康を守る新中核病院の早期実現を求める」9000人の要望書を知事に手渡しました。知事は「重く受け止める」と応じました(その席上には、わたし鈴木も来賓として招待され、同席していました)。



農林水産省が豪雪被害農家への支援策を発表

党豪雪対策本部(本部長・志位和夫委員長)の要請をうけて

2月20日の要請に、24日農水省から、雪害への農家再建支援策として、雪の重みで倒壊したハウスの撤去・再建費用の3割を補助することになった、果樹の植え替えに必要な資材費用を国が半額補助、植えてから収穫するまでの4年間は10アール当たり20万円助成することになった、など報告・説明がありました。

「農林水産省が発表した支援(抜粋)」

融資・農業共済での対応に加え、次の対策を実施する。

(1) 災害関連資金の無利子化
農林漁業セーフティネット資金等の災害関連資金の貸付利子を貸付当初5年間無利子化。

(2) 農業用ハウス等の再建・修繕への助成

農業用ハウス・棚等の再

建・修繕及び再建の前提となる倒壊したハウス等の撤去に要する経費を助成。(被災農業者向け経営体育成支援事業)

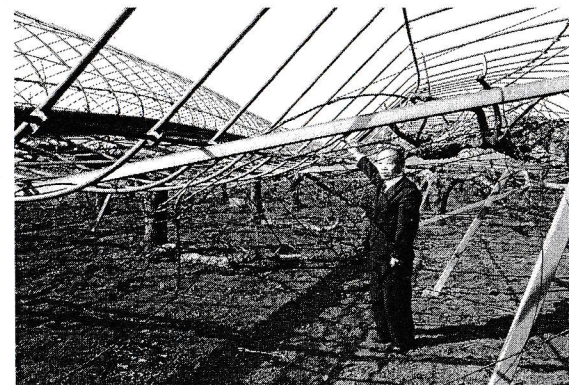
(3) 共同利用施設への助成

雪害を受けた産地に対し、別枠で集出荷貯蔵施設等共同利用施設の整備を優先的に支援。(強い農業づくり交付金)

(4) 果樹の改植への助成

被害果樹の植え替えとこれに伴う果樹棚の設置に必要な資材導入に要する経費及びこれにより生ずる未収益期間に要する経費を助成。(果樹経営支援対策事業、果樹未収益期間支援事業)

また、今後、詳細な被害状況を把握し、現場のニーズを伺った上で、追加対策を検討する。



私も郷土史を学んでいます(その1)

八代下館城主・水谷勝隆は、徳川幕府の重鎮といわれた上野・寛永寺住職の天海大僧正と親交が厚かった。天海が上野に寛永寺を創建したとき勝隆は上野・不忍池に琵琶湖の竹生島をまねて島を造り、弁天堂を建てた(現在ある不忍池弁天堂は、戦災で焼けた跡に再現したもの)。その後、勝隆は国替えになり備中成羽を経て備中松山に移る(現在の岡山県高梁市一筑西市と友好都市になっている)